

公益財団法人かめのり財団
平成 29(2017)年度 事業報告

平成 29(2017)年 4 月 1 日～平成 30(2018)年 3 月 31 日

平成 29 年度主要事業の実施状況と成果を報告する。

基本方針として、定款にうたわれる 3 つの柱

1. 高校生交換留学および大学院アジア留学生への奨学事業
2. 青少年の交流および言語教育支援を助成する国際交流事業
3. それらを推進するために、かめのり賞の顕彰、講演・シンポジウム等
その基盤支援事業

を実施することにより、日本とアジア・オセアニア諸国との相互理解・国際理解の促進を図ることができた。

設立 10 周年記念かめのりフォーラムに発表した「次なる 10 年の方針」に沿った

- 前向きにチャレンジし続ける「かめのりスピリット」をもつ若い人々の育成
- 異なる文化の人々と信頼関係を築き協働できる若い人々の育成
- ゼロから考え創る力をもつ若い人々の育成

を重視した事業内容を考えた。

また、若い世代が自ら育つ環境づくりのため、①アジア・オセアニア地域、特に中国、韓国、東南アジアを理解する日本の青少年の育成、②お互いの理念や目的を尊重し、協働できるパートナーとの事業展開を考慮に入れた事業を実施に取り組んだ。

1. 青少年留学支援事業

(1) 高校生交換留学支援

今年度は大学生を対象とした日本からの派遣事業のニーズを検討したが、過去の奨学生の現状調査をすることも必要であるとのことで、引き続き見直しを検討する。

(2) 大学院留学生支援

以下の奨学生 7 名に月額 20 万円を支給した。

平成 29(2017)年度 大学院留学アジア奨学生

李 侑娜 (中国)	Ms. Li, YouNa	リュウナ	2016. 4-2019. 3	慶應義塾大学 法学研究科公法学専攻
陳 晨 (中国)	Ms. Chen, Chen	チンシン	2016. 4-2019. 3	法政大学 人文科学研究科日本文学専攻
蔡 珂 (中国)	Ms. Cai, Ke	サイカ	2016. 4-2019. 3	千葉大学 人文社会科学研究科文化科学研究 専攻

楊 慧敏 (中国)	Ms. Yang HuiMin	ヨウケイミン	2017.4-2020.3	同志社大学 社会学研究科社会福祉学専攻
趙 沼振 (韓国)	Ms. Cho So Jin	チョソジン	2017.4-2020.3	東京外国語大学 総合国際学研究科国際社会専攻
白 瑞 (中国)	Ms. Bai Rui	ハクズイ	2017.4-2020.3	中央大学 法学研究科民事法専攻
郭 昊 (中国)	Mr. Guo Hao	カクコウ	2017.4-2019.3	立命館大学 文学研究科行動文化情報学専攻

大学院生へのサポートの一環として、平成 29 年 9 月 10 日～12 日、研修交流会を広島県広島市で実施した。今年も 10 名の奨学生と卒業生が参加、各自の研究テーマの発表と意見交換、OB たちによるミニ講義、上級生からの論文指導、現在抱えている課題等を共有することによって、奨学生の状況を把握し、学生同士の親睦を深めるよい機会になった。

また、平成 30 年度採用の「大学院留学アジア奨学生」の募集・選考を行った。指定校 24 校のうち 3 校から候補生の推薦があり、平成 30 年 3 月 6 日に選考試験（面接）を実施し、奨学生選考委員会により以下の 3 名を奨学生として決定した。

Ms. Nguyen Thi Thu Thao (ベトナム)	グエンティトゥオ		2018.4-2021.3	早稲田大学 アジア太平洋研究科 国際関係学国際関係学専攻
Ms. Nguyen Phuong Bao Chau (ベトナム)	グエンフオンバオチャウ		2018.4-2020.3	一橋大学 商学部商学研究科専攻
Ms. Kuy Siemkiang (カンボジア)	クイシエンキアン		2018.4-2021.3	大阪大学 言語文化研究科 日本語・日本文学専攻言語文化研究科

2. 青少年交流および言語教育支援事業

(1) 青少年国際交流

平成 29 年度は事業を継続するにあたって、各事業に選考、研修等にかめのり財団が関与できる事業形態に移行した。

① 第 10 期 高校生短期交流プログラム

(公財) YFU 日本国際交流財団により平成 29 年 7 月 29 日～8 月 24 日の間、日本人高校生 10 名（関西地域 6 名、名古屋地区 4 名）を夏休みの約 1 カ月間、韓国に派遣した。生徒たちはホストファミリーと生活しながら、現地の高校に通うという貴重な体験をした。

② 第4回高校生カンボジアスタディツアー

(公社) 日本ユネスコ協会連盟との共催事業として、平成29年8月5日～12日、全国から選考された10名の高校生が、カンボジアのプノンペン、シェムリアップの2都市を訪問した。プノンペンでは在カンボジア日本国大使館、UNESCOプノンペン事務所を訪問し、カンボジアにおける遺跡保存、識字教育等の現状を、そして国立博物館、キリング・フィールド、ツールスレン博物館を訪れ、カンボジアの歴史に触れると共に平和の尊さをあらためて共有した。シェムリアップでは当該団体が支援する2つの寺子屋に訪問し、そこで学ぶ子どもたちとの交流を通じて、貧困村における教育、生活向上支援の現場について考えを深めた。世界遺産アンコール遺跡群バイヨン寺院での石像修復や、ティー・チアン一座での伝統芸能の体験ではカンボジアへの理解を深めた。帰国後、参加者たちがカンボジアの現状をそれぞれの地域で発表し、カンボジアでの多様な経験から様々な刺激と気づきを受け、大変意義深いプログラムであった。

③ 第9回中学生交流プログラム

(公財) AFS日本協会により、平成29年11月4日～12日、九州、沖縄地方および山口県から選考された中学生9名を中国へ派遣した。今回は「環境を考える」をテーマに、中国における環境問題について理解するためのセッション、地方へのフィールドトリップ、学校訪問、現地家庭へのホームステイ等を行った。参加生徒は事前に準備をした環境問題のプレゼンテーションを現地で発表し、中国で環境対策が進んでいるといわれる江蘇州常州市を訪れた。そこでソーラーパネル工場やリサイクル処理施設を視察したほか、環境に配慮された町並みを自分たちの目で実際の中国の環境状況を把握することができた。テーマ学習以外のところでも、ホームステイや現地のインターナショナルスクールに滞在するなどして温かい交流を育む機会を得た。

④ 日本高校生「中国ふれあいの場」訪中事業

(独) 国際交流基金 日中交流センターとの共催事業として「日本高校生『中国ふれあいの場』訪問事業」を実施した。平成30年3月16日～23日の約1週間、全国各地から集まった日本人高校生10名および教員3名が、中国陝西省西安市および北京市を訪問した。西安では、現地の大学生らとの日本紹介イベントの準備・運営、西安外国語学校の訪問(授業見学・交流会)、同校生徒宅へのホームステイなどを行った。また、北京では天安門広場・故宮の参観を行い、参加者の中国へのイメージは前向きなものに大きく変化し、中国との友好関係や相互理解を深め、参加者から高い評価を受けた。

⑤ かめのりスクール2017

日本とアジアの中高生が交流を通して相互理解を促進することを目的として「かめのりスクール2017」を実施した。今年度は「かめのりスクール@御殿場」(平成29年7月28日～31日)の前に、アジア生のみ参加の「かめのりスクール@東京」(平成29年7月23日～28日)を実施、まず日本への理解を深めてからという2部構成で行った。「かめのりス

クール@東京」はアジア 5 か国（インドネシア、マレーシア、タイ、中国、韓国）より招聘した日本語を学ぶ高校生 10 人が「日本を知る 6 日間のプログラム」に参加した。つづく、「かめのりスクール@御殿場」はアジア生 10 人に日本人中高生 20 人、そして平成 29 年 1 月に「かめのり中高生アンバサダープログラム（KTAP）」でフィリピンに派遣された 7 人が加わり、青少年センター東山荘（御殿場市）にて「つたえる・つたわる」をテーマに異文化理解を促すプログラムに参加し、いくつかのグループワークによりコミュニケーションの難しさを乗り越えながら、グループ毎でまとめ発表した。活動を通して高校生が交流し、友好と相互理解を深めた。

⑥ かめのり地球青少年サミット 2017 [KEYS2017]

平成 29 年 8 月 16 日～22 日の 8 日間、香港中文大学ユナイテッドカレッジに於いて、日本、中国、香港、韓国、タイ、フィリピン、ベトナムの 7 地域・国から計 32 名の大学生が参加する「かめのり地球青少年サミット 2017 (KEIS2017)」を開催した。今年のテーマは「Current Issue and Prospects for Tomorrow's Aisa: Towards "One Asia"」（アジアの将来に向けた課題と展望～ワン・アジアを目指して～）とした。ノーベル賞受賞経済学者 Prof. Sir James A. Mirrlees の基調講演をはじめ、各国からの講師も多数参加して学生たちをサポートし、充実した会議となった。先生方による講義や議論を通じて、参加者は東アジアに内在する格差の問題、貿易をめぐる問題、東アジアの地域統合の可能性などについて学び考える機会となり、出身国の文化を紹介しながら相互理解を深めることができた。また、フィールドワークでは自然環境問題の現状と課題、香港における難民に関する問題を考えた。

最終的には経済、教育、環境、政治・社会の 4 つのグループで「One Asia」に向けてこれまでの学習成果を発表した。

⑦ かめのり中高生アンバサダープログラム 2018

平成 30 年 1 月 20 日～28 日の 9 日間、フィリピンのマニラ市およびケソン市へ日本全国から集まった 12 人の中高生を「かめのりアンバサダー」としてフィリピンに派遣し、現地の高校生をはじめ、いろいろな世代とコミュニケーションをとりながら、日本とフィリピンの文化や社会を考えるプログラムを実施した。生徒達はこのプログラムの 3 つの目標（「コミュニケーション能力を実感する」「フィリピン文化、社会など異文化理解する」「協働においてどのような能力が必要なのかを体験を通じて知る」）に加え、それぞれの目標を立てその達成にも取り組んだ。市内観光、高校訪問、NGO 訪問、そして国際交流基金マニラ日本文化センターとの共催事業「にほんご人フォーラム 2017（フィリピン）」に参加した。

後半の「にほんご人フォーラム 2017（フィリピン）」では「ごみ」をテーマに英語、日本語、フィリピン語が入り混じりながらフィリピンの高校生との共同活動を通じて、お互いを尊重し、言葉の壁を乗り越えそれぞれの国を知り合う良い機会となった。現地での体験や活動を通して高校生が交流し、コミュニケーション能力を高め、異文化を理解しながら、友好と相互理解を深めた。

(2) 国際交流事業の一般公募助成

本事業も中長期計画での見直しの対象となり、新たな一般公募助成の検討をした。

(3) 海外日本語教育サポート事業

平成 29 年度は以下の事業を実施した。

① (独) 国際交流基金との共催事業「にほんご人フォーラム 2017」の実施

平成 29 年 8 月 18 日から、学習者と教師の研修プログラム「にほんご人フォーラム 2017 (日本)」を国際交流基金日本語国際センターで実施し、教師が 14 日間、高校生が 10 日間参加した。タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、日本の 6 か国を対象に、高校生 24 名と中等教育機関の教師 13 名が、高校生セッション、教師セッションに分かれて活動した。教師たちはそれぞれが作成、持参した授業案を何度も議論、改善をかさね「実験授業」の形で実践したほか、新しい能力評価方法を作成し、高校生の活動を実際に評価する取り組みを行った。高校生たちは「いろいろな人がいることを楽しもう！」という共通課題に取り組むとともに交流し、友好と相互理解を深めた。

② 国際交流基金ベトナム日本文化交流センターへの助成事業「ベトナム中学生日本語キャンプ 2017」

ベトナムの中学生を対象に、教室活動では得られない日本語学習の楽しさを体感するとともに、既習語彙・文型の積極的な活用を促すことを目的に平成 29 年 7 月 24 日～26 日の 3 日間、5 つの都市・地域（ハノイ・ダナン・フエ・ホーチミン・ビンズオン）で日本語教育が導入されている中学校 27 校から生徒 54 人とベトナム人日本語教師 25 人が参加し、第 5 回目のキャンプを開催した。今回は「新しい仲間と新しい自分を探す冒険」をテーマに、グループに分かれ日本語劇を制作し、最終日に演じたことで個々人の日本語能力を最大限発揮する機会になったほか、創造性や協調性、協働力を深める機会になった。大学生ボランティアがファシリテーターとして生徒の活動に加わったほか、生徒を引率した教師たちは頑張った生徒達へメッセージカードの贈呈を行うなど、地域の垣根を越えて交流する機会となった。

③ 国際交流基金ベトナム日本文化交流センターとの共催事業「ベトナム高校生にほんご人 100 人訪日事業」:

国際交流基金ベトナム日本文化交流センターとの共催で、2016 年度～2018 年度の 3 年間にわたり計 100 名の高校生と 30 名の日本語教育関係者を日本に招聘し、ベトナムで第一外国語として日本語を学習する高校生とその学習環境を支える日本語教育関係者（日本語教師、学校長、教育行政関係者）に対し、グループとしての訪日機会を提供し、日本視察、日本の関係者との対話・協議を通じて、日本理解を促進するとともに、ベトナムの中等教育における日本語の基盤を強固なものにすることを目的とした事業の第 2 回目を実施した。

第 2 回目は平成 29 年 6 月 14 日～21 日にプログラムを実施し、ハノイのヴィエット ドック高校の生徒 10 名、ダナンのファンチャウチン高校の生徒 10 名、フエのクオックホ

ック) 高校とハイバーチン高校の生徒それぞれ 10 名とそれぞれの学校の副校長、日本語教師と各地域の教育訓練局の幹部職員、計 52 名を招聘した。大学(東京外国語大学、早稲田大学)、専門学校(東京デザイナー学院)はじめ、駐日ベトナム大使館、文部科学省、国際交流基金、環境施設(板橋区エコポリスセンター)、工場見学(グリコピア・イースト)に訪問、視察するほか、高校(関東国際高校、東京学芸大学附属国際中等学校)での交流、ゆかたの着付、和太鼓演奏等日本文化の体験や世界遺産視察(富士山)、都内見学を行った。昨年に引き続き多様な内容のプログラムに加え、高校生が多感な時期に親元から離れプログラムに参加することで参加生徒の親からはこどもの自立や成長を喜ぶ声が多くきかれた。

3. 国際交流および人材育成の講演・セミナー事業

(1) 異文化理解講演会

平成 29 年度の王敏理事による講演会は以下のとおり実施した。

① 「黄瀛(コウエイ)、宮沢賢治、草野心平 三者にかかわる話」

別府大学(平成 29 年 7 月 22 日実施)参加者数:約 120 名

② 比較という方法論から見た「日本・日本人」

ハノイ国家大学人文社会科学大学(平成 29 年 10 月 23 日実施)参加者数:約 60 名

③ 「異文化理解と交流」

NPO シルバーアドバイザーネット大阪(平成 29 年 11 月 19 日実施)参加者数:約 50 名

(2) かめのりフォーラム 2018

「かめのりフォーラム 2018」を平成 30 年 1 月 12 日に開催した。第 1 部では第 11 回かめのり賞を受賞した 3 名の個人・団体の代表者による「多文化共生にむけて」をテーマにしたパネルディスカッションを行い、第 2 部では懇親会が開かれた。

(3) かめのりセッション 2018

「かめのりフォーラム」に集まった平成 29 年のプログラム参加生および大学院留学生がフォーラム終了後、国立オリンピック記念青少年センターに宿泊し、平成 30 年 1 月 13 日に各プログラムの学びや帰国後の活動の振り返りを行うセミナーを実施した。他のプログラムの参加者との交流やグループ活動での協働で、コミュニケーションの大切さやアジアへの理解を改めて考える機会となった。

4. 国際交流および人材育成に関する顕彰事業

第 11 回かめのり賞はこれまでの選考方法を変更し、かめのり大賞 2 部門(草の根部門、人材育成部門)、かめのりさきがけ賞 計 3 団体・個人に顕彰した。将来を見据えた、地道な努力で心の絆を深め、相互理解に貢献している団体・個人の活動を評価した。正賞のトロフィーと副賞として 100 万円の活動奨励金を贈呈した。

【かめのり大賞 人材育成部門】(敬称略)

田村太郎 (一般財団法人 ダイバーシティ研究所代表理事)

【かめのり大賞 草の根部門】

認定非営利活動法人 かものはしプロジェクト

【かめのり さきがけ賞】

一般社団法人 グローバル人材サポート浜松

5. その他

(1) 広報活動の強化

継続的にホームページの充実を図るとともに、当財団の活動を関係団体はじめ広く周知するために、事業活動を紹介するニュースレター「かめのりコミュニティ」を7月、11月、3月と年3回発行した。

(2) ITの整備

いままで奨学金を支給していた過去の奨学生に関して現状を把握して、かめのりコミュニティの特集号で紹介する以外に、継続的にかめのり財団との関係をつなげるべく、OB・OGのネットワークづくりのため立ち上げたFACEBOOKを含み、引き続きIT環境の整備を行った。

以上